

謝辞

私は、2007年4月から2015年3月までの8年間、途中1年半の休学をはさみ、夏は暑く、冬は雪深い上越の地で学生生活を送りました。その間の学びを振り返ると、すべての場面において上越教育大学・得丸定子先生の温かいご指導があったことを思い出します。修士課程に入って間もなかった頃、得丸先生に時期尚早なる論を受けることを覚悟の上で、「いずれは博士課程で学んで研究者になりたいです。」と将来の目標を述べました。すると先生は、「では、博士課程に進みましょう。あなたなら大丈夫。」と間髪入れずに力強い一言で返してくださいました。それまでの私の青写真に光が射して、そっと彩られたような感覚を今でもよく覚えています。拙い私が博士研究に挑み、1つの形をこうして書き著すことができたのは、一重に得丸先生のお蔭です。心より感謝申し上げます。

副査をお引き受けくださった上越教育大学・林泰成先生、兵庫教育大学・西岡伸紀先生には、研究の要所で示唆に富むご助言、ご指導を頂戴いたしました。私の不勉強がゆえ、それらすべてを本論に生かすことはできませんでしたが、そのどれもが本研究を形作る上での試金石となったものばかりでした。一院生の研究に、真摯に向かい合ってくださいましたことに心から感謝申し上げます。

また、丁寧に論文を読み込んでいただき、公聴会後の審査会では、本論について建設的かつ批判的なお立場からご意見を賜りました上越教育大学・梅野正信先生、木村吉彦先生、兵庫教育大学・新井肇先生に心から感謝申し上げます。

私は、これまで、一貫して地域の中で研究を行って参りました。その研究活動は、まず、古海誠一氏をはじめとする「常設型地域の茶の間」関係各位、上石孟氏、宮腰正氏、小林久美子氏ら、「(旧)NPO 法人」関係各位の好意的な受け入れ姿勢及び、協力なくして遂行することはできませんでした。特に、古海氏との地域の諸課題に関する日常的な意見交換は、本研究の着想を得る上で大変重要な時間となりました。地域での研究を支えてくださった皆様に心から感謝申し上げます。

淑徳大学・田宮仁先生、郷堀ヨゼフ先生、京都大学・Carl Becker先生からも貴重な研究指導の機会を設けていただきました。他大学の院生である私に対して、

熱心にご指導いただきましたこと、心から感謝申し上げます。

上越教育大学で過ごした8年間の学生生活で、多くの学部生・院生と出会うことができました。その1人1人との出会いは、私の生きる活力となり、時に私の研究を直接的にサポートしてくださることもありました。特に、フィールド活動を引き継いでくださった良波祥吾さん、横山朗子さん、高橋祐貴さん、外山久人さん、栗山明さんの存在は絶大でした。心から感謝申し上げます。

最後に、私を産み育ててくれた母をはじめ、いつも応援してくれた新潟と岡山に住む家族、そして、一番身近で支えてくれた妻に、心から感謝の意を表したいと思います。

亡き祖父の面影を偲びつつ

2015年 季春

奥井 一幾